



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月13日

上場会社名 エア・ウォーター株式会社
 コード番号 4088 URL <http://www.awi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 青木 弘
 問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR室長 (氏名) 岸 貞行
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 札

TEL 06-6252-3966

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	467,142	19.4	24,606	11.3	25,999	7.8	15,052	6.5
25年3月期第3四半期	391,147	8.3	22,112	2.1	24,116	3.6	14,129	14.5

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 22,673百万円 (53.4%) 25年3月期第3四半期 14,782百万円 (56.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	76.99	76.83
25年3月期第3四半期	72.37	72.24

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	532,105	217,842	38.0
25年3月期	484,328	199,212	38.3

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 202,042百万円 25年3月期 185,599百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	11.00	—	13.00	24.00
26年3月期	—	12.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	630,000	16.7	34,000	21.9	36,000	2.4	19,000	3.5	97.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名)
、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	198,705,057 株	25年3月期	198,705,057 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	3,102,190 株	25年3月期	3,262,169 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	195,516,592 株	25年3月期3Q	195,245,998 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①当期の経営成績

当社グループを取り巻く経営環境は、企業の景況感に改善の動きが広がるなか、生産、設備投資、雇用などにも復調が見られ、業種間に差はあるものの回復は緩やかながらも着実なものとなっております。しかしながら、電力をはじめとするコストアップ、労務・資材不足による建設工事の遅れなど、依然として不透明要因があります。

こうしたなか、産業ガス関連事業は、顧客の操業に持ち直しの動きが見られるなど、ガス需要は回復に向かっております。しかしながら、製造業全般については、本格的な回復には今しばらく時間を要するものと思われま。一方、当社は全天候型経営ならびにねずみの集団経営を力強く推し進め、医療関連事業やエネルギー関連事業、農業・食品関連事業など生活者向けのビジネスは順調に推移するところとなりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,671億4千2百万円（前年同期比119.4%）、営業利益は246億6百万円（同111.3%）、経常利益は259億9千9百万円（同107.8%）、四半期純利益は150億5千2百万円（同106.5%）となりました。

②当期の連結セグメント別業績

（単位：百万円）

	売上高		経常利益	
	当第3四半期	前年同期比	当第3四半期	前年同期比
産業ガス関連事業	141,596	107.9%	9,540	93.6%
ケミカル関連事業	70,959	101.3%	2,009	88.3%
医療関連事業	82,451	148.0%	4,234	112.6%
エネルギー関連事業	36,630	105.3%	1,623	99.9%
農業・食品関連事業	54,044	196.4%	2,752	173.6%
その他の事業	81,459	113.4%	5,416	122.8%
（調整額）	—	—	422	—
合計	467,142	119.4%	25,999	107.8%

（注）経常利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない当社本社部門及び研究開発部門の費用並びに財務関連の損益等であります。

<産業ガス関連事業>

産業ガス供給は、高炉オンサイトが各製鉄所の順調な操業により、酸素を主体にガス供給が好調に推移いたしました。また、化学、自動車、建機、鉄骨・橋梁向けの需要についても徐々に回復してまいりました。しかしながら、エレクトロニクスは依然として調整局面が続き、厳しい状況で推移いたしました。さらに、世界的に需給タイトな状況が続いているヘリウムは調達コストにも影響し、厳しい状況で推移いたしました。

また、電気料金の値上がりにより製造費用の上昇が続いておりますが、コスト影響を吸収しバランスすべく産業ガス価格の改定に努め、着実に進捗いたしました。

なお、当第3四半期にインドで液化ガスならびにシリンダーガスビジネスを展開している産業ガスメーカー エレンバリー社へ資本参加いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は1,415億9千6百万円（前年同期比107.9%）、経常利益は95億4千万円（同93.6%）となりました。

<ケミカル関連事業>

コールケミカルは、コークス炉ガスの処理量が安定的に推移し、基礎化学品の主力である粗ベンゼンの生産ならびに販売が堅調に推移いたしました。ファインケミカルは、機能化学品の電材向けを中心に中国製造子会社への生産移管が進捗し、構造改革の効果が着実に現れました。タール蒸留事業は、無水フタル酸、ナフタリンなど安定した需要が継続したものの、主力のニードルコークスは、電気炉電極の最大マーケットである中国の低迷が続く、厳しい状況が続きました。

以上の結果、当セグメントの売上高は709億5千9百万円（前年同期比101.3%）、経常利益は20億9百万円（同88.3%）となりました。

<医療関連事業>

医療用酸素は、新規病院の獲得に努め前年並みの数量を確保いたしました。医療機器は、循環器系機器が症例数増加を背景に好調に推移いたしました。また、注力する周産期系医療機器は、商品ラインアップの充実により事業強化を図っております。医療サービスは、SPDならびに在宅医療分野でM&Aによる事業強化を図るとともに、滅菌サービスの受託病院数が増加し順調に推移いたしました。病院設備工事は、高度医療に対する病院の旺盛なニーズが高まり、手術室・ICU工事件数が拡大いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は824億5千1百万円（前年同期比148.0%）、経常利益は42億3千4百万円（同112.6%）となりました。

<エネルギー関連事業>

主力のLPガスは、節約志向ならびに気候の影響により家庭向け消費の減少が続きましたが、新規顧客の獲得やハイブリッド給湯暖房システムの設置促進、重油からの燃料転換による工業用LPガスの増販により、前年を上回る数量を確保いたしました。また、LPガス既存顧客への直売ルートを生かしたガス関連機器の販売は、展示会等の販売促進イベントが奏効し大きく伸ばすことができました。一方、新規獲得で数量拡大を続けてきた灯油は、需要期に入り仕入コストの上昇と気候の影響を受け、厳しい状況で推移いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は366億3千万円（前年同期比105.3%）、経常利益は16億2千3百万円（同99.9%）となりました。

<農業・食品関連事業>

ハムデリカ・冷凍食品事業は、原材料コストの上昇や為替影響を受け厳しい事業環境となりましたが、主力のハム・ソーセージの拡販と独自性の高い業務用ソースやスイーツが外食チェーンに新規採用されるなど総じて堅調に推移いたしました。

飲料事業は、果実・野菜飲料ならびに缶コーヒーなど主力の受託事業が順調に推移いたしました。

農産物流通・加工事業は、気候変動による歩留まり悪化などの影響を受けながらも、生鮮野菜の市場価格安定により、概ね堅調に推移いたしました。

以上の結果、当セグメントは上半期における飲料事業の新規連結効果を中心に事業が拡大し、売上高は540億4千4百万円（前年同期比196.4%）、経常利益は27億5千2百万円（同173.6%）となりました。

<その他の事業>

海水事業のうち塩事業は、業務用特殊製法塩の拡販、塩化カリウムなど新規事業の拡大、ならびに配管更生事業アクアインテック(株)の新規連結により、総じて順調に推移いたしました。マグネシア事業は、高級電磁鋼板用マグネシアの販売が回復し順調に推移いたしました。

物流事業は、建設関連を中心に荷扱量が増加いたしました。軽油価格などのコストアップにより厳しい状況で推移いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は814億5千9百万円（前年同期比113.4%）、経常利益は54億1千6百万円（同122.8%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金や投資有価証券の増加などにより前連結会計年度末に比べて477億7千7百万円増加し、5,321億5百万円となりました。負債は、有利子負債の増加などにより前連結会計年度末に比べて291億4千6百万円増加し、3,142億6千3百万円となりました。純資産は、四半期純利益の積み上げなどにより前連結会計年度末に比べて186億3千万円増加し、2,178億4千2百万円となりました。

なお、1株当たり純資産は前連結会計年度の949.63円から1,032.92円に増加し、自己資本比率は前連結会計年度の38.3%から38.0%に変動いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、足下、国内製造業の生産活動が緩やかに回復するとともに、設備投資にも増加の動きが見られ、産業ガス事業は堅調に推移するものと思われ。しかしながら、電気料金の上昇などのコストアップ要因に対しては予断を許さない状況であり、引き続き適正なガス価格の実現に注力してまいります。同時に、中長期的視点から省エネプラントの技術開発ならびに建設に対して積極的な投資を行い、産業ガス事業の持続的な収益確保に努めております。すでに当社は、独自開発による高効率小型液化酸素・窒素製造装置「V S U」を開発し、2004年以来、全国に11基を設置してまいりました。

また、特殊ガスのアプリケーション技術から生み出された独自開発によるS i C基板量産化技術を代表とする次世代技術の開発にも積極的に注力し、将来的な業績貢献を目指しております。

平成26年3月期の通期業績予想につきましては、平成25年11月14日発表の業績予想から変更しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、主として当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,879	30,311
受取手形及び売掛金	125,851	135,537
商品及び製品	20,280	23,003
仕掛品	5,101	7,588
原材料及び貯蔵品	7,715	9,186
その他	24,279	24,847
貸倒引当金	△1,993	△2,147
流動資産合計	201,116	228,327
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	44,665	48,289
機械装置及び運搬具(純額)	66,029	64,468
土地	53,196	54,500
その他(純額)	33,795	35,180
有形固定資産合計	197,686	202,439
無形固定資産		
のれん	13,639	14,557
その他	4,282	4,428
無形固定資産合計	17,922	18,986
投資その他の資産		
投資有価証券	47,447	62,405
その他	21,196	20,786
貸倒引当金	△1,040	△838
投資その他の資産合計	67,603	82,352
固定資産合計	283,212	303,778
資産合計	484,328	532,105

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	87,745	94,286
短期借入金	53,663	52,851
1年内償還予定の社債	38	38
未払法人税等	4,389	4,225
その他の引当金	348	255
その他	35,923	30,593
流動負債合計	182,107	182,251
固定負債		
社債	10,057	10,038
長期借入金	57,296	83,949
退職給付引当金	7,786	8,567
その他の引当金	1,399	1,277
その他	26,469	28,179
固定負債合計	103,008	132,011
負債合計	285,116	314,263
純資産の部		
株主資本		
資本金	32,263	32,263
資本剰余金	34,455	34,542
利益剰余金	129,973	140,148
自己株式	△3,280	△3,143
株主資本合計	193,411	203,812
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,165	6,937
繰延ヘッジ損益	△331	△273
土地再評価差額金	△8,792	△8,792
為替換算調整勘定	145	358
その他の包括利益累計額合計	△7,812	△1,770
新株予約権	290	334
少数株主持分	13,322	15,466
純資産合計	199,212	217,842
負債純資産合計	484,328	532,105

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	391,147	467,142
売上原価	307,661	376,222
売上総利益	83,486	90,920
販売費及び一般管理費	61,373	66,313
営業利益	22,112	24,606
営業外収益		
受取利息	184	176
受取配当金	505	529
持分法による投資利益	1,456	1,068
その他	1,927	1,946
営業外収益合計	4,073	3,721
営業外費用		
支払利息	1,154	1,205
設備賃貸費用	630	761
その他	284	362
営業外費用合計	2,069	2,328
経常利益	24,116	25,999
特別利益		
固定資産売却益	84	115
受取補償金	1,553	1,437
その他	516	387
特別利益合計	2,154	1,940
特別損失		
固定資産除売却損	1,340	809
減損損失	175	163
投資有価証券評価損	132	3
災害による損失	10	—
その他	113	137
特別損失合計	1,772	1,113
税金等調整前四半期純利益	24,499	26,826
法人税等	8,489	10,190
少数株主損益調整前四半期純利益	16,009	16,635
少数株主利益	1,879	1,582
四半期純利益	14,129	15,052

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	16,009	16,635
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,169	5,600
繰延ヘッジ損益	△69	74
為替換算調整勘定	1	147
持分法適用会社に対する持分相当額	10	215
その他の包括利益合計	△1,227	6,037
四半期包括利益	14,782	22,673
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,950	21,009
少数株主に係る四半期包括利益	1,832	1,663

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	産業ガス 関連事業	ケミカル 関連事業	医療 関連事業	エネルギ ー関連 事業	農業・ 食品関連 事業	その他の 事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	131,224	70,068	55,726	34,773	27,512	71,842	391,147	—	391,147
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,022	22	422	1,287	49	12,594	16,398	(16,398)	—
計	133,247	70,091	56,148	36,060	27,562	84,436	407,546	(16,398)	391,147
セグメント利益	10,188	2,257	3,762	1,624	1,585	4,408	23,845	270	24,116

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない当社本社部門及び研究開発部門の費用並びに財務関連の損益等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	産業ガス 関連事業	ケミカル 関連事業	医療 関連事業	エネルギ ー関連 事業	農業・ 食品関連 事業	その他の 事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	141,596	70,959	82,451	36,630	54,044	81,459	467,142	—	467,142
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,730	35	234	1,395	65	12,276	16,738	(16,738)	—
計	144,327	70,995	82,686	38,026	54,109	93,735	483,881	(16,738)	467,142
セグメント利益	9,540	2,009	4,234	1,623	2,752	5,416	25,576	422	25,999

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない当社本社部門及び研究開発部門の費用並びに財務関連の損益等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。